令和6年度 授業改善推進プラン

学年 3年	教科 国語	授業者 佐藤
-------	-------	--------

1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力

知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等

2. 生徒の現状

(1) 「令和6年度全国学力・学習状況調査」の分析

生徒質問紙結果分析	観点別結果分析
<p>・「国語の勉強は大切だと思いますか」という質問では、肯定的な回答が52.6%となり、都・全国平均を下回る結果となった。また、「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という質問も同様に、肯定的な回答をした生徒は39%となり、全国平均を下回った。</p> <p>・一方で「互いの発言を結び付けて考えをまとめている」「表現の効果を考えて書いている」「目的に応じて要約し、解釈している」といった質問は、肯定的な回答が都・全国の平均を上回っていた。</p> <p>以上のことから、読む・書く・話す力を意識的に身につけようとしている一方で、国語を学ぶ意義を理解していない生徒が多いことが分かった。学んだことを日常生活にどのように生かしていくか考える機会を増やしていきたい。</p>	<p>・「平均到達スコア」は全国平均よりも全てにおいて、日野一中は上回っている。</p> <p>・単元別に見ると、「表現の効果を工夫して書くこと」「目的に応じて必要な情報を整理すること」は全国・都平均を上回り、「必要に応じて質問しながら話し合いの内容を捉えること」「情報と情報の関係を理解する」は平均を下回った。</p> <p>意見と根拠のつながりなど、情報の関係性に対する理解が不十分であるため、話し合いの場面でも適切な質問を選択する問題の正答率が下がったと考えられる。説明文の授業では、筆者の主張とその根拠がどこに書かれているかを考えさせ、論の展開を捉えることができるようにしていきたい。</p>

(2) その他の資料等を活用した分析（授業改善アンケート学習への取り組み方について）

活用した資料等	分析結果
授業アンケート	<p>「何を学ぶのか学習の目標がはっきりとした授業が行われている」という質問に対しては99%、「自分の考えをまとめたり、話し合ったりする授業が行われている」という質問に対して98%の生徒が肯定的な回答をしている。このことから、授業のねらいを踏まえて、自分なりに振り返りをまとめたり他者と意見を共有したりすることができていると考えられる。</p> <p>一方で、「chromebookを活用して理解を深める活動をしている」という問いについて、15%の生徒が否定的な回答をしている。情報共有する場面で、ICTを積極的に活用していきたい。</p>

3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

改善の観点	具体的な改善策
<p>・「情報と情報の関係を捉えること」</p> <p>・質問項目「国語の勉強は大切だと思いますか」</p>	<p>・生徒が意見を結び付けながら授業を受けていると回答している一方で、結果を分析すると「情報と情報の関係」の理解は不十分であることが分かった。上記に示したように、筆者の主張やその根拠がどこに示されているかを丁寧に確認し、生徒が論の展開を正確に理解できるようにしていきたい。</p> <p>・授業のねらいを理解している生徒は多かったが、国語の大切さや学ぶ意義については意識していない生徒が多数いることが分かった。生徒が学習を日常に結び付けて考えられるよう、学んだ知識をどこで生かせるか考える機会を設けていきたい。</p>

様式3 5科

令和6年度 授業改善推進プラン

学年 2 年	教科 国語	授業者 江原 竹中
--------	-------	-----------

1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力
 知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等

2. 生徒の現状

◆授業の資料等を活用した分析

(定期考査、振り返りシート、授業中の取組、実技、パフォーマンス課題、授業改善アンケート 学習への取り組み方について 独自のアンケート等)

活用した資料等	分析結果
授業改善アンケート	<p>・「何を学ぶのか学習の目標がはっきりとした授業が行われている」、「板書やプリント、スライドや動画など、視覚的な工夫がされて分かりやすい」という質問に対し99%の生徒が「そう思う」「ややそう思う」と回答していることから、学習の目標をよく意識させ、視覚的な工夫が十分になされているといえる。</p> <p>・他方、「自分が考えたことを、積極的に他の人や先生に伝えようとしている」という質問に対して「あまりそう思わない」「そう思わない」と答えた生徒が13%、「分からないときは、他の人や先生に質問して解決している」では12%いた。思考の共有や交流など、相互のやり取りを通して深い学びにつなげる点について課題がある。</p>

3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

改善の観点	具体的な改善策
-------	---------

<ul style="list-style-type: none"> ・質問項目「自分が考えたことを、積極的に他の人や先生に伝えようとしている」、「分からないときは、他の人や先生に質問して解決している」→主体的に学びに向かう態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題についての意見を相互に交流する場面、自分の考えを他人に伝える場면을より多く確保し、他人に意見を伝える経験を積ませる。 ・ループリックを用いて評価規準を明示することにより、主体的に学びに向かう意欲を喚起する。
---	---

様式2 日野市学力調査実施（1年国数理英）

令和6年度 授業改善推進プラン

学年 1 年	教科 国語	授業者 橋本
--------	-------	--------

1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力

知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等

2. 生徒の現状

(1) 「令和6年度日野市学力調査」の分析

生徒質問紙結果分析	観点別結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「国語の授業で文章のよい例を参考にしますか。」という質問に対して、全国平均の上位と下位の差の数値が、25.5%だったが、日野一中では上位と下位の差が 33.4%と上回っている。全てがお手本のように書くのが良いわけではないが、臨機応変に、よい例をお手本を参考にし、自分の文章に生かす活動をし、個々のボトムアップをしていく。 ・「国語の授業でグループによる話し合いができています。」という質問に対して、全国平均の上位と下位の差の数値が、25.3%だ 	<ul style="list-style-type: none"> ・「平均到達スコア」は全国平均よりも全てにおいて、日野一中は上回っている。単元テストでも、国語の記述問題において、意欲的に書こうとする生徒が多い印象がある。 ・「平均正答率」の「漢字の読み」の単元が、全国平均よりも日野一中が 0.2%下回っている。国語の単元テストでは、毎月漢字テストを年度当初に範囲を指定して、試験実施している。間違えた問題に関しても主体的に生徒が解き直しできるように、今後、振り返りを工夫していく。 ・「平均正答率」において、「言語文化」の問いが全国の平均よりも 1.5%下回っている。知識・技能を定着させるために、一度学習して終わりではなく、定期的に復習をしつつ学習を進めていきたい。

<p>ったが、日野一中の上位と下位の差の数値が 22.8%であった。これからも話し合い活動を行い、自分の考えを深めていく。</p>	
---	--

(2) その他の資料等を活用した分析（授業改善アンケート学習への取り組み方について）

活用した資料等	分析結果
授業アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業によって興味、関心がわき、自分から学習に取り組もうとしている。」という質問に対し 93.6%の生徒が「そう思う」「ややそう思う」と回答している。引き続き、学習の目標を理解しながら学習していく。 ・「Chromebook を授業で活用して、理解を深める授業が行われている。」という質問には、「そう思う」と回答している生徒が 43.8%、「ややそう思う」という生徒が 44.7%と回答している ・「他の人と意見が違ったとき、質問をして、相手の考えを確かめている。」という質問に対し、「そう思う」と回答している生徒が 53.6%、「ややそう思う」と回答している生徒が 34.5%だった。

3. 授業改善策（上記 2（1）（2）を踏まえて）

改善の観点	具体的な改善策
<ul style="list-style-type: none"> ・「Chromebook を授業で活用して、理解を深める授業が行われている。」 ・「他の人と意見が違ったとき、質問をして、相手の考えを確かめている。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Chromebook は使用しているが、そこから理解を深められるように、思考・判断・表現したことを、周囲に伝え、発表するだけでなく、さらに質問をし、他者の意見を知ることによって、自分の考えを深めていく活動をしていく。 ・ 今後の国語の学習活動において、自分の意見をクラスメイトに伝えるだけでなく、意見が異なる相手とも、具体的に違うところをさらに質問して、異なる意見などに対しても、相互理解を深めていく活動をしていく。

様式 3 5 科

令和 6 年度 授業改善推進プラン

学年 3 年	教科 社会	授業者 飯塚・石原
--------	-------	-----------

1. 教科の目標：育成したい 3 つの資質・能力

知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等

2. 生徒の現状

◆授業の資料等を活用した分析

**(定期考査、振り返りシート、授業中の取組、実技、パフォーマンス課題、
授業改善アンケート 学習への取り組み方について 独自のアンケート等)**

活用した資料等	分析結果
授業アンケート	<p>授業アンケートより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問項目①～⑧において、「そう思う」「ややそう思う」の割合が9割を超えているため、引き続き、ICT機器を活用したわかりやすい授業を心がけていく。特に、「Chromebook を授業で活用して、理解を深める授業が行われている」について、「そう思う」「ややそう思う」の割合が10割に近いため、引き続き積極的に使用していく。 ・昨年度は、質問項目⑧の「授業の終わりに、学んだことを振り返ったり、整理したりすることができる」の回答のみ、「そう思う」「ややそう思う」の割合が8割を超えていなかったが、今年度は9割を超えていた。昨年度の改善点を生かし、前時の復習時間を短く設定する、教員の説明を動画で省略する等の工夫をすることで、生徒の振り返りや整理の活動時間を十分に確保することができた結果であると考えます。 ・学習への取り組み方の質問項目①「自分が考えたことを、積極的に他の人や先生に伝えようとしている」について、「そう思う」「ややそう思う」の割合が9割に達していない。

3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

改善の観点	具体的な改善策
<p>学習への取り組み方の質問項目①「自分が考えたことを、積極的に他の人や先生に伝えようとしている」は、「主体的に学習に取り組む態度」の評価に繋がる部分である。</p> <p>「主体的に学習に取り組む態度」の評価に際しては、自らの学習を調整しようとする側面だけでなく、「知識及び技能」を獲得したり、「思考力・判断力・表現力」等を身に付けたりすることにに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている側面という2つの側面を評価することが必要。</p>	<p>「主体的に学習に取り組む態度」を見とる課題を行う際、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ループリックを提示し、生徒自身が目標を定めて、課題に対して粘り強く取り組む側面を見取る。 ・課題終了後、生徒自身が自己評価と他者評価を行うことで、自らの学習を調整する側面を見取る。

令和6年度 授業改善推進プラン

学年 2 年	教科 社会	授業者 梶塚・石原
--------	-------	-----------

1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力
 知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等

2. 生徒の現状

◆授業の資料等を活用した分析

(定期考査、振り返りシート、授業中の取組、実技、パフォーマンス課題、授業改善アンケート 学習への取り組み方について 独自のアンケート等)

活用した資料等	分析結果
授業アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・「先生の言葉による指示は明確で分かりやすい」の質問について、78%の生徒が「そう思う」と回答していた。1学期中に授業内での言葉遣いや、指示をする際の工夫を意識していた結果である。2学期以降も、生徒に誤解がないような指導をしていく。 ・「自分の考えをまとめたり、伝えあったりする授業が行われている」の質問について、69%の生徒が「そう思う」と回答していた。また、「自分が考えたことを、積極的に他の人や先生に伝えようとしている」の質問について、52%の生徒が「そう思う」と回答していた。これは、協働的な学びが授業の中で行えていなかったことが原因である。 ・「Chromebook を授業で活用して、理解を深める授業が行われている」の質問について、67%の生徒が「そう思う」と回答していた。chromebook はスライドとフォームでの学習しか行っていなかったことが原因である。学習に使用できるアプリは多種多様なので、教材研究をしてから2学期以降に使用していく。

3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

改善の観点	具体的な改善策
-------	---------

協働的な学び	あらゆる社会的事象や物事を関連させて、課題を解決する力が社会科では求められるので、考察の根拠である資料集めが大切である。1 学期では資料集めが不十分であった。また、1 学期での講義形式による授業を生徒主体の授業に改善していく。例えば、ある物事に関する資料を生徒に配布し、1 つの発問を設けて生徒に個人で考えさせ、少人数で意見を深めた後、全体で共有していく生徒主体の授業を行う。その中で、ミライシードを使用し、より効果的な学びを実現していく。
--------	--

様式 3 5 科

令和 6 年度 授業改善推進プラン

学年 1 年	教科 社会	授業者 江口 好信
--------	-------	-----------

1. 教科の目標：育成したい 3 つの資質・能力
 知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等

2. 生徒の現状

◆授業の資料等を活用した分析

(定期考査、振り返りシート、授業中の取組、実技、パフォーマンス課題、
 授業改善アンケート 学習への取り組み方について 独自のアンケート等)

活用した資料等	分析結果
---------	------

授業アンケート	<p>「板書やプリント、スライドや動画など、視覚的な工夫がされて分かりやすい」の項目において、「そう思う」の回答が 85%みられたため、引き続き視覚的な工夫をしていく。</p> <p>「Chromebook を授業で活用して、理解を深める授業が行われている」の項目において、「そう思う」の回答が 79%みられたため、さらに積極的に活用していく。</p> <p>「授業の終わりに、学んだことを振り返ったり、整理したりすることが行われている」の項目において、「そう思う」の回答が 64%みられた。これを 80%にできるように改善していく必要がある。</p> <p>学習への取り組み方について「自分が考えたことを、積極的に他の人や先生に伝えようとしている」の項目では「そう思う」の回答が 49%で「他の人と意見がちがったときは、質問をして相手の考えを確かめている」の項目では「思わない」の回答が 9.9%みられた。この二つの項目の底上げが必要である。</p>
---------	--

3. 授業改善策（上記 2（1）（2）を踏まえて）

改善の観点	具体的な改善策
振り返りの仕方	授業の最後の振り返りの時間を今より長く取り、紙に書いたり、言葉に発したりして振り返りの仕方を工夫する。
話し合いの工夫	自分の考えを共有する時間を取っているものの積極的にという観点では、共有する回数を増やしていき、オクリンク使用时、他の意見を公開する時間を長くすることで自分の考えを伝えることへの抵抗感をなくしていく。また、意見の対立を生むような発問をし、その意見の違いをさらに深める発問をしていき、疑問や課題の探求を深めさせ、自分で質問ができるようにしていく。

様式 1 全国学力調査実施（3年国数）

令和 6 年度 授業改善推進プラン

学年 3 年	教科 数学	授業者 曾田、久保田
--------	-------	------------

1. 教科の目標：育成したい 3 つの資質・能力

知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等

2. 生徒の現状

(1) 「令和6年度全国学力・学習状況調査」の分析

生徒質問紙結果分析	観点別結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「数学の勉強は好きですか」という質問に対して肯定的な回答が 59.1%であった。一方で 4割近くの生徒はこれまでの学習の中で苦手意識をもっていることが課題である。 ・「数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」という質問に対して肯定的な解答は 85.5%と全国・都平均を大きく上回った。また、「数学の授業で学習したことを、今後の学習で活用しようとしていますか」の質問も肯定的な回答が 84.1%と同様に上回った。 <p>以上のことから、苦手意識がある生徒も今後の学習や社会で必要であることを理解し、できるようにしようと粘り強く努力する生徒が多くいることがわかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観点別では、観点1・2ともに全国・都平均を上回った。 ・領域別では「図形」「データの活用」は全国・都平均を上回り、「数と式」「関数」は平均的または下回った。図形の証明やデータの分析など前年度末に学習した内容の正答率が高いが、関数のグラフを含む問の正答率は低い。 ・記述の間では、手順の決まった図形の証明は 42.7%の生徒が正答できているが、データを比較してわかったことを説明する、手順の決まっていな説明の正答率は 25.6%と低かった。初見の問題に対する思考力・判断力・表現力の低さが予想される。

(2) その他の資料等を活用した分析（授業改善アンケート学習への取り組み方について）

活用した資料等	分析結果
<ul style="list-style-type: none"> ・「学びに向かう力等に関する意識調査」アンケート ・授業改善アンケート 	<ul style="list-style-type: none"> ・「数学の授業内容がわかりやすい」に対して、肯定的な回答が 75%あった。 ・「学習の目標がはっきりとした授業」や「興味や関心かわき、自分から学習に取り組む」に対して、肯定的な回答が 90%以上あった。 ・「自分が考えたことを、積極的に他の人や先生に伝えようとしている」の肯定的な回答が少ない。

3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

改善の観点	具体的な改善策
①知識・技能の定着	①単元テスト後に再テストを実施し、知識・技能の定着を図る。
②授業や単元テストの振り返り	②授業後に本時のポイントを振り返る時間を確保する。また、自らの考えを記述し話し合う場面を設け、知識を論理的にまとめ説明する力を育成する。

令和6年度 授業改善推進プラン

学年 2 年	教科 数学	授業者 緒方
--------	-------	--------

1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力

知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等

2. 生徒の現状

◆授業の資料等を活用した分析

(定期考査、振り返りシート、授業中の取組、実技、パフォーマンス課題、
授業改善アンケート 学習への取り組み方について 独自のアンケート等)

活用した資料等	分析結果
授業改善アンケート	<p>・「何を学ぶのか学習の目標がはっきりとした授業が行われている」という質問において、「そう思う」「ややそう思う」の割合が98.7%だったので引き続き目標をはっきりとした授業を心がけていく。また「授業によって興味・関心がわき、自分から学習に取り組もうとしている」・「板書やプリント、スライドや動画など、視覚的な工夫がされて分かりやすい」・「先生の言葉による指示は明確で分かりやすい」・「自分の考えをまとめたり、伝えあったりする授業が行われている」などの質問においても「そう思う」「ややそう思う」の割合が9割を超えているので引き続き生徒にとって分かりやすい授業を展開していきたい。</p> <p>逆に、「Chromebook を授業で活用して、理解を深める授業が行われている」について、「そう思う」「ややそう思う」の割合が8割だったため、chromebook を活用した授業について考えていかなければいけないと感じる。しかし教科の特性上、筆記用具を使用し自分の思考を整理させていくことの方が重要だと考えているため、この質問項目の割合が少ないのも仕方ない部分だと感じている。ICT先進国スウェーデンの研究結果では chromebook を使用した学習によって学力が下がったという報告もなされているのでその辺も踏まえて適切に使用していきたい。</p>

3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

改善の観点	具体的な改善策
-------	---------

<p>学習への取り組み方についての質問項目「自分が考えたことを、積極的に他の人や先生に伝えようとしている」「そう思う」「ややそう思う」の割合が7割程度</p>	<p>・数学の知識をインプットするだけでなく、アウトプットすることで知識が定着が図られることを意識して授業を展開していく。</p>
---	---

様式2 日野市学力調査実施（1年国数理英）

令和6年度 授業改善推進プラン

学年 1 年	教科 数学	授業者 池田 久保田
--------	-------	------------

1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力
知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等

2. 生徒の現状

(1) 「令和6年度日野市学力調査」の分析

生徒質問紙結果分析	観点別結果分析
<p>教科の好き嫌いを問う問題では、肯定的な割合が57.1%であり、特にA層とD層の差が56.9%と全教科中最も高くなっている。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度を問う問題ではほとんどの問題で全国平均、市平均を上回っていたが、「問題を解いた後でもう一度解き方を振り返って、良いところと間違っているところやもっと工夫できることを見つけ出して、より良い解き方を考えるようにしている」という質問では、わずかながら全国平均を下回った。</p> <p>以上のことから好き嫌いの差が大きいものの、主体的に取り組もうとする生徒が多いことがわかる。</p>	<p>テストの平均点では、64.6%と全国平均、市平均ともに下回っている。</p> <p>観点別において、知識技能に関する問題では、67.1%と全国平均、市平均ともに下回っているが、思考判断表現に関する問題では、55.1%と全国平均、市平均ともに上回っている。</p> <p>領域別では、数と計算においては全国平均、市平均を大きく下回っており、特に分数の計算には課題がみられた。</p> <p>出題形式別では、記述式のみ全国平均、市平均を上回っている。</p> <p>上記から記述する力はあるが、計算力の向上が課題であると考えられる。</p>

(2) その他の資料等を活用した分析 (テストより)

活用した資料等	分析結果
正負の数の加法と減法、乗法と除法の小テスト	分数を含まない整数の計算問題のみであり、正答率は全体で75%を超えた。
正の数、負の数の単元テスト	分数を含む基本的な計算問題では、正答率が48.1%であった。

3. 授業改善策 (上記2 (1) (2) を踏まえて)

改善の観点	具体的な改善策
計算力の向上	①定期的な小テストを実施し、計算力の向上へ取り組む。 ②フォームを活用し、何回でも練習できるようにする。 ③間違えた問題を振り返り、同じ間違いをしないよう考える習慣を付ける。
解き方の振り返りの改善及びより良い解き方の工夫	①具体的は事例を示しながらどこで間違っているかの分析方法を教える。 ②テストの振り返りや章ごとの振り返りの時間を授業内で取り、困っている生徒へ個別にアドバイスを実施する。 ③日々の授業や章ごとに取り組んでいる問題の解説では、より良い解き方やそのための工夫について考えたり、より方法を紹介していく。

様式3 5科

令和6年度 授業改善推進プラン

学年 3 年	教科 理科	授業者 恒田 佐藤 加藤
--------	-------	--------------

1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力
 知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等

2. 生徒の現状

◆授業の資料等を活用した分析

(定期考査、振り返りシート、授業中の取組、実技、パフォーマンス課題、授業改善アンケート 学習への取り組み方について 独自のアンケート等)

活用した資料等	分析結果
---------	------

理科授業アンケート	<p>「自分が考えたことを、積極的に他の人や先生に伝えようとしている」の回答で、とてもそう思う43%、そう思う42%、「自分の考えをまとめたり、伝えあったりする授業が行われている」でやや思わないが7%のため、他の質問内容よりもアンケート結果が低い。授業で自分の考えを他の人に伝える活動がまだ不十分であると感じられる。</p>
全国学力学習状況調査	<p>アンケート調査の結果、「理科の勉強は好きですか」「自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりすることがありますか」に対して、当てはまる・やや当てはまるの回答をした割合が、都の平均よりも高い数字であった。しかし、やや当てはまらない・当てはまらないの回答が24%いることもあり、都や全国よりも少ないとはいえ、改善をしていく必要があると感じられる。</p>

3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

改善の観点	具体的な改善策
自分の意見を伝える活動	<p>「自分が考えたことを、積極的に他の人や先生に伝えようとしている」や「自分の考えをまとめたり、伝えあったりする授業が行われている」の改善を目指し、実験の考察や応用問題の話し合いなど、自分の意見を発表する機会を増やしていく。</p>
理科への興味関心	<p>身近なものに結びつけて理科の興味関心が湧くような授業を今まで以上に取り入れていく。また、化学反応式や速度、密度、濃度の計算、地層の分析など、日常生活の中で関わりが少なく、なおかつ難しい単元で意欲が下がることが多い。そのため、難しい単元は「できる」ことで楽しくなるように、個別の習熟度に合わせて問題に取り組めるように、課題フォームを難易度別に作成する。</p>

学年 2 年	教科 理科	授業者 角田 加藤 西
--------	-------	-------------

1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力
 知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等

2. 生徒の現状

◆授業の資料等を活用した分析

(定期考査、振り返りシート、授業中の取組、実技、パフォーマンス課題、
 授業改善アンケート 学習への取り組み方について 独自のアンケート等)

活用した資料等	分析結果
理科(角田)授業アンケート	「自分で考えたことを積極的に他の人や先生に伝えようとしている」でそう思うと答えた生徒が 51.3%と他の項目に比べ、肯定的な回答が少なかった。話し合いの時間が十分に取れなかったことが考えられる。

3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

改善の観点	具体的な改善策
授業展開の工夫	「問い」に対して、まず自分で考えさせる、その後近くの人と考えを共有する、その後に全体で発表をするなど丁寧に順序立てて、話し合い活動を進めていく。

令和6年度 授業改善推進プラン

学年 1 年	教科 理科	授業者 林 西
--------	-------	---------

1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力
 知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等

2. 生徒の現状

(1) 「令和6年度日野市学力調査」の分析

生徒質問紙結果分析	観点別結果分析
<p>教科の好き嫌いを問う問題では、肯定的な割合が66.1%であり、特にA層とD層の差が31.6%となっている。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度を問う問題では全ての質問で市平均を上回り、多くの問題で全国平均を上回っていたが、「実験や観察、調査の結果をまとめてレポートに書いている。」という質問では、60%に満たない値となった。</p> <p>以上のことから理科という教科が好きで、主体的に取り組もうとする生徒が多いことがわかる。</p>	<p>テストの達成率では、51.8%と全国平均、市平均から2ポイント程度下回っている。</p> <p>観点別でみると、知識・技能に関する問題では、42.1%と全国平均、市平均ともに4ポイント程度下回っているが、思考・判断・表現に関する問題では、68.0%と全国平均、市平均から4ポイント程度上回っている。</p> <p>また、学力層の差を見ると観点と領域ともに差が非常に大きい。</p> <p>以上のことから、得意とする生徒と苦手とする生徒の差が非常に大きいことがわかる。</p>

(2) その他の資料等を活用した分析（授業改善アンケート学習への取り組み方について）

活用した資料等	分析結果
授業改善アンケート	「自分が考えたことを、積極的に他の人や先生に伝えようとしている」では、16.9%の生徒が、「他の人と意見がちがったときは、質問をして相手の考えを確かめている」では、16.9%の生徒が否定的な回答をしている。

3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

改善の観点	具体的な改善策
-------	---------

授業展開の工夫	自分の意見を発表する機会や相手の意見を聞く機会を増やす。
興味・関心	66%の生徒は理科を好きであるが、達成率が50%程度であるので、興味・関心を生かして、スモールステップの発問を増やしたり、互いに教えあう時間を確保する。

様式3 5科

令和6年度 授業改善推進プラン

学年 3年	教科 英語	授業者 山本 上水 並木 宮崎
-------	-------	-----------------

1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力
 知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等

2. 生徒の現状

◆授業の資料等を活用した分析

(定期考査、振り返りシート、授業中の取組、実技、パフォーマンス課題、授業改善アンケート 学習への取り組み方について 独自のアンケート等)

活用した資料等	分析結果
---------	------

<p>授業アンケート</p>	<p>授業アンケートより「そう思う」「どちらかというと思う」が一番多かった項目は、「自分の考えをまとめたり、伝えあったりする授業が行われている」だった。91.4%の生徒が、「そう思う」「どちらかというと思う」と回答した。言語活動を積極的に取り入れた成果といえる。</p> <p>一方で、「思わない」「どちらかというと思わない」が一番多かった項目は、「授業の終わりに、学んだことを振り返ったり、整理したりすることが行われている」という項目で、21.9%の生徒が「思わない」「どちらかというと思わない」と回答した。言語活動終了後、振り返りシートの記入を促したが、記入が完了するのに十分な時間を確保できなかったことが原因としてあげられる。</p>
----------------	--

3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

改善の観点	具体的な改善策
<p>学びに向かう力、人間性等</p>	<p>「授業の終わりに、学んだことを振り返ったり、整理したりすることが行われている」という問いに対し、「思わない」「どちらかというと思わない」と回答する生徒の割合 10%以下を目指す。</p> <p>振り返りの時間を毎授業の最後に設定し、学んだことを整理する習慣をつけさせる。</p> <p>学習進捗を視覚的に追うためのループリックやチャートを作成し、生徒が自分の学習の進み具合を調整できるようにする。</p> <p>生徒の振り返りに対し、フィードバックの機会を設ける。</p>

様式3 5科

令和6年度 授業改善推進プラン

<p>学年 2 年</p>	<p>教科 英語</p>	<p>授業者 並木 木内 高坂</p>
---------------	--------------	---------------------

1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力

知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等

2. 生徒の現状

◆授業の資料等を活用した分析

(定期考査、振り返りシート、授業中の取組、実技、パフォーマンス課題、授業改善アンケート 学習への取り組み方について 独自のアンケート等)

活用した資料等	分析結果
授業アンケート	「自分の考えをまとめたり、伝え合ったりする授業が行われている」に対してそう思うと回答している生徒は92.1%いて、毎回の授業に自分のことについてペアで伝え合う時間を確保していた成果だと考えられる。
パフォーマンステスト課題	「他の人と意見がちがったときは、質問をして相手の考えを確かめている」に対してそう思わない、どちらかというそう思わないと回答している生徒が18%いて、自分と意見がちがう生徒に対してさらに質問をする時間を確保できていないことと指示をだしてないことが分析される。 今、学習している単元の表現は使用しようとするが、昨年度に学んだ表現が身についておらず、使う語句が単一の生徒が多い。また疑問詞が正しく身につけていない生徒が多く会話テストなども正しく答えられない生徒が目立った。

3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

改善の観点	具体的な改善策
言語活動における自他の考えの深め方	言語活動を行う活動では、相手に伝える前に自分の考えをしっかりと持てるようにスモールステップで丁寧に指導していく。 また相手との対話の中で自分の意見とちがう考え方の生徒にそのことをさらに聞いてみるような質問をさせる時間や活動を意図的に設定する。またどんな表現が相手の考えを深める表現になるかを生徒たちに提示することで積極的に考えを深めようとする活動になるようにしていく。

令和6年度 授業改善推進プラン

学年 1 年	教科 英語	授業者 宮崎太樹・木内直美
--------	-------	---------------

1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力

知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等

2. 生徒の現状

(1) 「令和6年度日野市学力調査」の分析

生徒質問紙結果分析	観点別結果分析
<p>教科の好き嫌いについては、とても好き 19.6%、まあ好き 39.1%、あまり好きではない 28.3%、好きではない 13.0%であり、肯定的な回答は 58.7%であった。</p> <p>教科の理解度については、よくわかっている 33.5%、まあわかっている 37.4%、あまりわかっていない 23.5%、まったくわかっていない 5.7%であり、肯定的な回答は 70.9%であった。</p> <p>理解度に比べ、好きではない回答が多いため、動機づけを高めていく必要がある。</p>	<p>知識・技能について、本校達成率は 83.0%だったのに対して、全国達成率は 76.5%なので、本校は 6.5%上回っていた。</p> <p>思考・判断・表現について、本校達成率は 90.0%だったのに対して、全国達成率は 82.5%なので、本校は 7.5%上回っていた。</p> <p>両方の観点で全国達成率を上回っているため、小学校での基礎力は身につけていると思われる。</p>

(2) その他の資料等を活用した分析（授業改善アンケート学習への取り組み方について）

活用した資料等	分析結果
授業改善アンケート	「他の人と相談して、考えを深めるようにしている(65.8/31.5/0.0/2.7)」が高いことに対して、「自分が考えたことを、積極的に他の人や先生に伝えようとしている(39.7/42.5/13.7/4.1)」、「他の人と意見がちがったときは、質問をして相手の考えを確かめている(43.8/43.8/11.0/1.4)」、「分からないときは、他の人や先生に質問して解決している(43.8/45.2/5.5/5.5)」が低いため、わからないことをそのままにして、学習を継続している傾向が予測できる。

3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

改善の観点	具体的な改善策
-------	---------

質の高い中間指導	話す活動 [やり取り・発表]、書く活動を行う際に、複数回取り組ませ、言えなかったこと、書けなかったことを①教科書本文、②教科書表現リスト、③辞書を使えることを活用して自己解決し、次の話す、書く活動に自信をもって挑戦できるような指導を行う。
----------	---

様式4 4科

令和6年度 授業改善推進プラン

教科 音楽	授業者 萩原・吉原(2年のみ)
-------	-----------------

1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力

知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等

2. 生徒の現状

◆授業の資料等を活用した分析

(定期考査、振り返りシート、授業中の取組、実技、パフォーマンス課題、授業改善アンケート 学習への取り組み方について 独自のアンケート等)

学 年	活用した資料等	分析結果
1 年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケート ・単元テスト ・実技テストの振り返り等 ・授業観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・活気があり、集中力もあるが、テストの結果や振り返りシートの内容を見ると、個人差はあるが話を聞き流している生徒が多いように感じる。 ・音楽記号などの知識の定着が小学校により差があった。
2 年	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケート ・単元テスト ・実技テストの振り返り等 ・授業観察 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽を愛好する気持ちはあり、指示されたことは動けるが、自主的に動いたり、協力しあって現状を変えようとする力が弱い。また、歌唱の分野では女子の技術・表現力が大変弱い。
3 年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケート ・単元テスト ・実技テストの振り返り等 ・授業観察 	<ul style="list-style-type: none"> 見通しが甘く、決められた時間内で課題を克服しようとする集中力が足りない。 自分たちでよりよい表現をしようとする意欲はあり、素直に感じたことを表現出来る生徒が多い。

3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

学 年	改善の観点	具体的な改善策
1 年	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな表現を目指す ・話の内容が理解できるように環境を整える 	<p>豊かな表現を目指すために、その時間の目標をはっきりさせ、目標達成のためどんな練習をするか仲間と確認し合う時間を設ける。chromebook を利用し、パート練習を充実させる。</p> <p>chromebook を利用する場面（自主練習）と話を聞く場面をはっきり区別させる。</p>
2 年	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間と協力し合い、よりよい表現を目指す。 ・自主的に活動する 	<ul style="list-style-type: none"> ・合唱コンの取り組みの中で chromebook を利用し、発声法や音程を理解し、話し合いの中でよりよい表現を目指す。 ・自分たちの課題を考え、今やるべきことを相談し実践にうつす。
3 年	<ul style="list-style-type: none"> ・パートリーダーを中心に、生徒たちが主体的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より完成度の高い合唱を目指して、chromebook を利用し、様々な演奏を聞き、意見交換をし協力し合っひとつの合唱を仕上げていく。

様式4 4科

令和6年度 授業改善推進プラン

教科 美術	授業者 藤枝 美波
-------	-----------

1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力

知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等

2. 生徒の現状

◆授業の資料等を活用した分析

（定期考査、振り返りシート、授業中の取組、実技、パフォーマンス課題、授業改善アンケート 学習への取り組み方について 独自のアンケート等）

学 年	活用した資料等	分析結果
1 年	授業中の取組として、制作のレベル設定を行った。	①美術が苦手な生徒や、制作スピードがゆっくりな生徒に対しての個別最適化を狙った授業を行うことができた。

		②制作時間を計画的に行うことができた。 ③無理なく制作ができた。
2 年	パフォーマンス課題 (塗り絵で配色を学ぶ)	①座学で学ぶよりも、色塗りを行うことで配色について理解しながらポスター制作することができた。 ②自ら配色について実践してからテストに臨めたため、理解が深まった。
3 年	振り返りシート	①振り返りを行うことによって次回の目標を明確化して作業を行うことができた。

3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

学 年	改善の観点	具体的な改善策
1 年	作品制作について	2学期では制作が一気に難しくなってくるため、その単元のどこを一番大切にしたいか厳選しながら制作を進める。自らで考えて制作していく場面と、ある程度こちらからアイデアを出すなど、メリハリを付ける。満足のいくような作品が作れるようにする。
2 年	生徒同士のコミュニケーションの場を増やす。	授業改善アンケートでは生徒自身が自分の意見を言うことができなかつた生徒が多いという結果があったため、積極的にコミュニケーションをとり合う環境を作る。
3 年	振り返りシート	フォームで振り返りを行ったため、目標をわざわざスプレッドシートにあげて紹介する必要があった。生徒がいつでも振り返りを見られるようにスライドを使う。

教科	保体	授業者	小田島、川幡、桶田、鶴見、松崎
----	----	-----	-----------------

1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力

知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等

2. 生徒の現状

◆授業の資料等を活用した分析

(定期考査、振り返りシート、授業中の取組、実技、パフォーマンス課題、
授業改善アンケート 学習への取り組み方について 独自のアンケート等)

学 年	活用した資料等	分析結果
1 年	①振り返りシート、レポート ②ホワイトボード ③タイムシフトカメラ・動画	①評価規準を明確にしているため、肯定的な意見が多かった。 ②本時の目標や、評価基準などを常に掲示しておくことで生徒が振り返りやすい環境をつくった。また、生徒が考えをまとめる際にも活用した。 ③タイムシフトカメラも進化しており、動画を保存することもできるようになった。客観的に動きを振り返ることによって新たな気づきが生まれた。
2 年	①タイムシフトカメラ ②振り返りシート、レポート ③作戦板	①chromebook のカメラ機能やタイムシフトカメラは、生徒の資質能力を高めるために効果的であった。 ②思考判断表現の具体性や合理性に課題が見られた ③他者への声かけをする際、効果的であった。
3 年	①振り返りシート、レポート ②タイムシフトカメラ・動画 ③ホワイトボード	①タイムシフトカメラも進化しており、動画を保存することもできるようになった。客観的に動きを振り返ることによって新たな気づきが生まれた。 ②本時の目標や、評価規準などを常に掲示しておくことで生徒が振り返りやすい環境をつくった。また、具体的な動きの説明や生徒が考えをまとめる際にも活用した。

3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

学 年	改善の観点	具体的な改善策
1 年	授業内で、他者に質問する機会を増やす。	・グループ内での話し合い活動や意見交換の場面で、質問することや意見をぶつけることで、考えが深まり、広がることを伝え、授業展開を行う。 ・意見が出しやすい雰囲気や課題設定などの配慮を行う。
2 年	振り返りシート、レポート、授業中における声掛け（思考判断表現）における合理性や具体性、積極性等が低い。	・戦術を学んだり、作戦会議を行う時間を設定し、その結果を振り返りシートやレポートに記入できるように授業展開を行う。 ・声を掛けやすいように、技能別のグループ編成を行うなどの配慮を行う。

3 年	授業内で、生徒が考えを伝え合う場面を増やす。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が考えたことを積極的に他の人や先生に伝えようとしているという回答が低かったので撮影したものを活用してペアや小グループで意見を伝える時間を設ける。 ・特定のメンバーではなく、さまざまな段階の生徒と関わるようにする。また、技能の高い低いで発言に差が生まれないような問いにする。
-----	------------------------	--

様式4 4科

令和6年度 授業改善推進プラン

教科 技術	授業者 鳥越 朗
-------	----------

1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力

知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等

2. 生徒の現状

◆授業の資料等を活用した分析

(定期考査、振り返りシート、授業中の取組、実技、パフォーマンス課題、授業改善アンケート 学習への取り組み方について 独自のアンケート等)

学 年	活用した資料等	分析結果
1 年	振り返り課題 構想図を製作図にする際の改善点をスライドで記録	よりよくするためにどのような改善を行ったのかを可視化することができ、主体性の評価につながった。
2 年	単元ごとの振り返り 栽培の記録を写真とスライドで行い理由を書いた	単元ごとの振り返りをすることで学ぶ前と後での社会とのつながりを考え、評価する場面につながった。またスライドに記録することによって時系列でどのような成長をしているのかを観察、理解することができた。
3 年	ドライヤーの仕組みのスケッチ 新しい発電方法に関するレポート	スケッチをすることによってより具体的な構造について理解することができた。 レポートを書くことで現在のエネルギー事情から多面的な視点を持つことができた。

3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

学 年	改善の観点	具体的な改善策
1 年	木材加工の実習での自己調整の見取りについて	製作の過程をより細かく記録し、学習の自己調整を見とれるような記録の仕方をしていく。具体的には今回の実習での進み具

		合から次回の目標を決められるようなスライドを作る。
2 年	プログラミングにおける振り返りについて	授業改善アンケートから学んだことを振り返ったり整理したりする時間が多くとれていないことが分かったので毎時間ごとに振り返りの時間を取るようになる。
3 年	エネルギー変換における自習の振り返り、授業の進捗について	授業改善アンケートから授業改善アンケートから学んだことを振り返ったり整理したりする時間が多くとれていないことと、進捗が早いと思っている生徒がいるので振り返りなどで理解度を確かめながら授業を進めていく。

令和 6 年度 授業改善推進プラン

教科 家庭	授業者 黒川 理加
-------	-----------

1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力

知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等

2. 生徒の現状

◆授業の資料等を活用した分析

(定期考査、振り返りシート、授業中の取組、実技、パフォーマンス課題、
授業改善アンケート 学習への取り組み方について 独自のアンケート等)

学 年	活用した資料等	分析結果
1 年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の取組み ・授業改善アンケート 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをまとめたり、伝えあったりする授業が行われている (74.1%) ・自分が考えたことを、積極的に他の人や先生に伝えようとしている(82.6%) ・テストの時間が短く感じた生徒が 10%程度いる。
2 年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の取組み ・授業改善アンケート 	<ul style="list-style-type: none"> ・先生の言葉による指示は明確で分かりやすい (78%) ・自分が考えたことを、積極的に他の人や先生に伝えようとしている(80%) ・他の人と意見がちがったときは、質問をして相手の考えを確かめている(78.9%)
3 年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の取組み ・授業改善アンケート 	<ul style="list-style-type: none"> ・何を学ぶのか学習の目標がはっきりとした授業が行われている(87%) ・授業によって興味・関心がわき、自分から学習に取り組もうとしている(67%) ・自分の考えをまとめたり、伝えあったりする授業が行われている(67%)

3. 授業改善策（上記 2（1）（2）を踏まえて）

学 年	改善の観点	具体的な改善策
1 年	単元テストについて	単元ごとのテスト内容の事前提示と、問題の例示を早めに行う。また、試験時間の見直しを行う。
2 年	目的に応じた衣服選択における学びについて	調べたり発表したりする授業回数を増やす。

3 年	持続可能な生活と自分の生活について	興味関心を自ら持てるような、体験的な学習機会を作る。
-----	-------------------	----------------------------